香葉

1998　　NO.27

目　　次

講演会への御案内……1
会長あいさつ……古　城　房　子……2
学長あいさつ……吉　田　　博……3
女専のページ……ワグナー・美典……4
文学賞のことなど……岡　松　和　夫……6
覚え書　－25－……上　市　二　郎……7
定年退職によせて（田中順子氏）……12
スポットライト……田　中　弥　生……14
ハンソン山から……16
県央のつどい……19
ハンドベル・コンサート……20
香葉室……21
クラス会報告……24
母校ニュース……26
決算・予算……27
賛助金……28

表　紙……関　　頼　武
カット……SMILY　カツラギ

― 現代高齢化社会を考える ―

本田　桂子 先生　講演会

作家であり、父親である丹羽文雄氏を長年にわたり介護され、先頃　その記録を中央公論社より出版されました本田桂子先生をお迎えして、高齢者の介護の在り方などお話を頂きます。

テーマ：『父を、語る』

●**日　時**：平成10年11月１日（日）
　　＊13：00～　　総　会
　　＊13：30～　　講演会

●**場　所**：図書館棟５Ｆ視聴覚室

・**プロフィール**

料理研究家

1936年　作家・丹羽文雄氏の長女として生まれる。

成蹊高等学校、白百合女子短期大学国文科を卒業後結婚、アメリカ各地（ニューヨーク･サンフランシスコ･シカゴ）に10年。パリに５年の海外生活を過ごす。

現在は、月１回自宅で料理サロンを開き、料理を教えている。

雑誌等に、ユニークな料理を発表している。

・**著書**

『父、丹羽文雄　介護の日々』　中央公論社

今までの講演者・演奏者名です。（敬称略）

1985	永井　路子	1992	円　より子
1986	鳥飼玖美子	1993	呉　　善花
1987	田中喜美子	1994	大庭みな子
1988	関東学院ハンドベルクワイヤ	1995	佐伯　輝子
1989	宮崎　安子	1996	大塚野百合
1990	吉武　輝子	1997	関東学院ハンドベルクワイヤ
1991	吉屋　　敬		

★香葉会の部屋★ご案内

卒業生と在校生・教職員の交流の場として、今回も３号館106号教室にて『香葉会の部屋』を開室し、コーヒーとお菓子のサービスを致します。お友達どうし・ご家族お誘い合わせの上お立ち寄り下さい。

※　10月31日・11月１日　　両日とも開室致しております。

※　香葉会会員の手作り小物等の販売も致しております。

香葉会から

会長　古城房子

激動の二十世紀も、あと二年で終ろうとしています。昨年に引き続き、今年も五十年前の戦争以来の不況に、先の希望も展望もみえない状況になっています。卒業生にとっても就職状況は益々厳しくなっているようです。短大は確実に学生数が減少して、これからどんな特色を出して魅力のある学園にしていくかが問われる時代になりました。香葉会も、今の形のまま活動を続けられるかどうか心配になります。思い切って若い新しい顔ぶれによって、新しい発展をして欲しいと切望している私ですが、未だ足を洗えず、「アラ、今年も同じメンバー?」という事になり、皆様の期待を裏切って誠に申し訳なく思います。しかし事務局は一新しました。十年間、香葉会の為に儘力して下さった益昌子さんが、三月で退職されました。私達にとって大変な痛手でしたが、ご家庭の事情で今迄通りの勤務はご無理とのこと、これからは不定期に手伝って頂くことをお願いしました。同時に岡崎敬子さんもお母様の看病の為、退職されましたが今後は年度委員として協力下さる事になりました。お二人には本当にお世話になり会員一同心から感謝申し上げます。代りに、松井美智子さん丹野好子さんのお二人を事務局にお迎えしました。お二人共、香葉会の仕事に興味をもって、益さんに手伝って戴いて仕事を覚えて下さっていますが、大変有能な方達を与えられて、喜んでおります。六月には総会に代る年度委員会で紹介をさせて戴き、今年の歩みを始めており、今後も社会に目を向けていくボランティア募金、留学生の支援、卒業生への広報活動などと共に、学園の発展のために、出来る限りの協力態勢をととのえていきたいと願っています。

今年は織田明美幹事の指導で日本画教室を始めました。興味のある方は事務局にご連絡の上、ご参加下さい。グリーンフェスティバルの「香葉の部屋」でハガキに描いた作品を展示販売できるか……と期待しています。

香葉会々員も少しづつ高齢者がふえておりますが、会員の方のご不幸の報も時折入り、淋しく残念に思います。過日、女専二回の飯島敏子様のご逝去を伺いました。妹さんの近藤栄子様より二回生の方達のために……と十万円のご寄付がありましたが、二回生の有志の方々のご意志により香葉会にご寄贈戴きましたのでご報告申し上げます。お志をありがたく戴き、有意義に使わせて戴くことにいたしました。心からの御礼を申し上げると共に飯島様のご冥福をお祈り申し上げます。

新卒業生から新年度委員になって香葉会のために働いて下さる方々を迎え、その積極的な力強い応援を得て、今年も香葉会は頑張っていきたいと思います。「香葉」を読んで下さること、行事に参加して下さることが、何よりのはげみとなりますので、ご協力をお願いします。

（短英Ⅰ）

挨拶

学長　吉田　博

四月二日に入学式が挙行され、女子短期大学のキャンパスは今、フレッシュな空気で満ちあふれております。新入生諸君も学院に十分に馴染み、キャンパスライフを大いにエンジョイしております。二年生諸君は昨年から就職協定が廃止になった影響でその活動が前倒しとなり、就職課の指導のもとにそちらの対応にも追われているようです。国は開かれた社会をキャッチフレーズに掲げ、男女雇用均等法の制定や職場への女子の進出などを推進しておりますが、バブル崩壊後の女子の就職難現象などをみていると、未だ社会は女性にとって十分に開かれた存在とはいえず、男女共生社会の実現は未だ先のことのように思えてまいります。

この二十世紀のイメージは重構造の鉄のイメージの百年であったかのように思えます。熱いうちならば鉄はどのようにも造形できるが、冷え固まると変形しえない。鉄に対する私のイメージは、年齢とともに硬直化していく頑固な老人であり、それは若さと対極にあるものに思えてまいります。

しかし、二十一世紀は、人間性豊かな個性あふれる生活を目指す、しなやかな発想がこの管理社会に風穴を開け、さらに男性社会から女性社会へ転換する時代になるのではないかと思っております。

二十世紀は男の論理、男の価値観、男の視点で社会が構築され、そこへ女性が招待されているかのように私には見受けられます。しかし、二十一世紀は女性の論理、女性の価値観、女性の視点で世の中を見直す必要があろうかと思います。女性は男性のように闘争や危険を好みません。したがって、女性社会では地球環境を破滅に導くようなことはなく、二十一世紀は与えられた生命を慈しみ、共生の感覚が再確認される成熟した社会になるのではないかと思っております。ぜひそのような社会になるよう願いたいものです。

さて、本学の現況ですが、人事面では本年の三月末日をもって下田哲教授が完全退職をなされました。本学のキリスト教学の専任教員として三十五年間、その間、学長を二期、八年間、宗教主任、野庭幼稚園長、短大付属幼稚園長などを歴任され、本学のために多大な奉仕をなされました。本年四月一日付けで本学の名誉教授としての称号授与が理事会において決定され、五月十三日にその授与式が予定されております。また、英文科のアリス・バンビューレン特約助教授、共通科目の吉見富美子特約講師も一身上の都合で退職なされました。両先生には本学の教育活動に対し、多大な御支援をいただきました。

教育環境面では三カ年計画でキャンパス情報ネットワークシステムの敷設を展開しております。昨年は教育・研究用ＬＡＮシステム、インターネットカフェ、マルチメディア教室を設置し、現在、学生諸君に有効に活用されております。今年度は教育系ＬＡＮシステムの一層の充実とともに、図書館システム、事務系ＬＡＮシステムの設置などを計画しております。今後ともに本学の行く末をお見守り下さるようお願い申し上げます。

女専のページ

私の半世紀

ワグナー・美與

関東学院の女専と言えば焼跡の三春台が目に浮びます。昭和二十年八月十五日の終戦で生きる目的を失った私にはある願いがありました。一つは日本を占領したアメリカ人を知りたい事。そして何時か外国人が書いた日本歴史を読みたいとの二つで、それには先ず英語の勉強をしなければ、と思いました。

最初に与えられた機会は関東の夜間学校で先生は従軍牧師でした。始めの教材は英字新聞等の抜粋でしたが間もなく新約聖書が与えられ、この教室では英語だけでなくそれ以上に大切な教えを受けたのです。放蕩息子が帰って来た時の父親の喜び、九十九匹の羊を牧場に残し、唯一匹の迷った羊を捜しに行った羊飼いの話等を訳し乍ら、人間の価値に対する新しい態度が解り出して来ました。故時田信夫牧師の横浜教会へ通い出した事や、二十一年五月に関東のプールで洗礼を受け、クリスチャンとしての第一歩へ私を導いたのはこの英語学校でした。その後多くのアメリカ人と知り合い、日本の伝統とは異った人間の在り方に気がついたのです。

女専に入ってからD・W・ジェンキンス夫人のボランティヤー活動の秘書として働きました。御主人は米軍最高年令の志願応募軍曹で六十二才でした。或る晩、山手のお宅でクリスマス・ツリーを飾りプレゼントを沢山下に置いた後、皆床につきました。私は翌日の試験の勉強を夜中迄していたのですが、どうも一階の部屋に泥棒が入って居るらしいので急いでMr.ジェンキンスを起こしました。Mr.ジェンキンスは「今下に降りて行く。」と大声で怒鳴り、軍服に着かえて、ノッシノッシと階段を降りて行った時は泥棒はプレゼントを全部取って逃げた後でした。始めは何と几帳面な軍人もいるものかと呆れる程でしたが、このご夫婦の人格に触れるに従ってその訳が解って来たのです。クリスマスを前に泥棒にプレゼントを持たせて逃げる様にわざわざ計らったのです。そしてそれと同じ愛の心で私にも仕事を与えてくれているのではないかとも。

女専卒業後、本牧にあった進駐軍の教会の秘書を勤め二十九年の春、米国の真中にあるカンザス州のセントラル・バプテスト神学校に入学、宗教々育学を専攻しました。五カ国からの留学生はよく各教会に自分たちの国を紹介する為に招かれました。カンザス・シティはトルーマン大統領の出身地に近く、日本に対する関心も深くて、私はこの様な会合によく呼ばれました。或る日私は中年夫人の訪問を受けたのです。その方は涙ながらに、「息子が戦争で日本人に殺されたので、自分はクリスチャンであるのにどうしても日本人に敵愾心を持っていた。ところが先日、始めて日本人の貴女に逢って息

子を殺したのは日本人ではなく戦争であったことに気がついた。神様にはお許しを願ったので、貴女にもお詫びに来た。」と言われるのです。私は返事も出来ない程の激しい感情に捕われ手を取り合って神のお導きに感謝しました。この様な純粋な心を持つ人が所謂、「無言の大多数」（サイレント・マジョリティ）で、以前から私が知りたかったアメリカ人なのかとも思えました。

神学校を卒業した三十一年に結婚し、三十四年に生れた息子の為に米国市民権を取りました。三十七年にはカンザス・シティ内外に住む親日家達と米国中部日米協会を創立し、これが日米親善運動の第一歩となり、十年後には倉敷市とミズウリ州のカンザス・シティは姉妹都市提携を結びました。親善訪問の準備として日本語教室が開かれましたが、私にはこの教室を通じて真の日本を伝える事が大きな夢でした。生徒の数も学級も年々増し、子供のクラスも加えられて「ミヨ・ワグナー日本語学校」は海外日本語教育機関の一つとして国際交流基金から認められました。次いで大学二校から客員講師として招聘され、特にロックハースト大学では六十六年に勇退する迄十一年間、日本語学校は昨年の閉校迄二十四年間続けました。この間、学生達に日本語を学ぶ喜びと意義を与えると同時に一般市民の関心を啓蒙する為に日本語祭を催し、殊に祭がロックハースト大学に移ってからは在カンザス・シティ日本総領事館の援助も得て大規模に拡張し当市の年中行事になりました。

光畑先生のシェイクスピヤー劇は「鼠の嫁入り」や「若返りの泉」になって生徒が演じ、芸能、武道、盆栽等の紹介、文化講演会も提供し、日本語祭は、毎年千人以上の参加者で賑わいました。

日米協会は昨年三十五周年を祝い、現在迄に日本語学校の生徒は合計六十人が学生親善使節として倉敷へ行きました。姉妹都市提携は昨年二十五周年を記念し、当市の公園に八重櫻二十五本を献樹しました。私はそのお陰で今年始めてアメリカで櫻の花を見る事が出来たのです。

昨年十一月七日に、
日本国天皇より勲五等の叙勲を賜わり宝冠章及び勲記を授与され身に余る光栄に与りました。叙勲の対象となった働きは、私が一生を通じて触れ合った方々の御支援とご協力によってこそ可能であった事を信じております。特に日本でお世話になった恩師の尊い教えが過去半世紀の生活の原動力であったと思います。大岡小学校では三年生の時に、クレオンを持った私の手を握り「金剛石も磨かずば玉の光もそわざらむ。」と歌い乍ら玉葱の写生の手ほどきして下さった片岡珠子先生。私は日本語を通じて生徒一人ひとりの長所を磨く事に努めました。横浜高等女学校の中島敦先生は生徒の実力をよく理解しつゝ、格式の高い日本文学を教えて下さいましたが、曖昧な事は絶対に許さない方でした。そのお陰で、正しい事をはっきり教えられる様に自分の勉強に努力致しました。

関東学院は私を神にお導き下さり、留学への道を開き、アメリカで教壇に立つには不可欠な英語の知識と実力をお与え下さったのです。二千人以上の教え子は現在アメリカや日本だけでなく世界各地で各分野に於いて、しかも日本の友として活躍しております。私はこの一生を神に深く感謝すると共に、この様に私をお導き下さった関東学院に対し尊敬と感謝を心からお捧げ致します。（女専英２）

文学賞のことなど

岡松和夫

今年の春、私は第二回の木山捷平文学賞を受賞しました。対象作品は昨年新潮社から出版した『峠の棲家』という小説です。

この小説は私の祖母をモデルにしたものですが、書くのに何年かかかりました。初めはありのままの祖母を書く気でいましたが、途中で方向を転じたためです。祖母は昭和二十六年三月に癌で亡くなりましたが、その通りではなく、もう少し生きていたら祖母はどうしたろうかと考えました。また、私はどうしたろうかとも考えました。そうした、仮定の「祖母と私」を書いていきました。比較的楽しく書けたのは、祖母が私にいろいろの思い出を残していてくれたからです。それを作品のなかに存分に入れこみました。受賞後、おかげでこの本は版を重ねています。

受賞式は今年三月一日、岡山県笠岡市で行われ、私は初めて笠岡市に新幹線で行きました。詩人で小説家だった木山捷平を記念して市が始めた賞です。これまで私は芥川賞や新田次郎賞を受賞しましたが、それらの受賞式は東京で行われました。受賞式の会場にみえる人も、小説家やジャーナリストです。しかし今度は地方自治体の主催というので、少し緊張しました。

しかし、東京からは関係のジャーナリストと一緒でしたし、笠岡市でも堅苦しいことは何もなく、助かりました。

木山捷平文学賞の受賞式の当日、同じ会場でもう一つの受賞式があり、私も出席しました。それは「市民の詩賞」入賞者への受賞式で、こちらは小・中学生、高校・大学生、それに一般市民の詩のなかからいい作品が選ばれるのです。市が文芸活動に力を入れていることがよく分かりました。

四月二十四日、笠岡市にまた出かけました。今度は木山捷平文学賞の受賞者として講演をするためです。早朝に鎌倉の家を出て、また新幹線に乗り、午後二時半からの講演に間に合わせました。

話は、自分の人生観や小説についてです。自分としては格別の人生観を持っているわけではありません。ただ、いろいろの経験をしてきたとは言えます。私は現在六十六歳です。終戦の年の昭和二十年には中学二年生でした。当時、私は福岡市で生活していましたが、家はB二九の空襲で焼けてしまいました。当時、既に父は病死しており、母が一家の中心でしたが、家の焼けたことが心にこたえたのでしょう、様子がおかしくなり、結局は何も食べなくなって昭和二十一年一月に死にます。こういう経験が私を文学に近づけたことは間違いありません。私の芥川賞受賞作「志賀島」はこの時代を書いております。

そのほか、私の関心をもつ戦後の日本の姿について話してみました。

こんなわけで、今年の春はいつもより慌ただしく過ぎてゆきました。

覚え書（二十五）

―女専・短大小史―

上市二郎

歳月の流れは早いもので、この〝覚え書〟も遂に二十五回目という良い区切りの年となりました。学院の定年が昭和六十年（一九八五）三月でしたので早くも十三年が経ちました。三百万人以上の人口を有する雑踏の横浜から空気の綺麗な十万未満の静かな君津市へ移ってからでも、既に十一年の月日が過ぎようとしています。大学も短期大学も世代交代が行なわれて、着々と新しい時代に即応した業務が行なわれていることは大変喜ばしいことです。そこで、〝覚え書〟も次の世代の方々に新しい感覚で記憶していたゞくには、丁度良い時期で「香葉」の編集部でも交代された様ですので第二十六回目からは宜敷く委員のお取り計らいをお願いしたい、と思っております。

さて、前号では昭和三十七年五月に葉山寮に於て、新任の先生方のためのオリエンテーションが開かれて、講話の後に夕食を共にしながら懇談のひとときを過ごした様子を記述した処迄で終ってしまいました。

この年も前年と同じ様に大学祭は五月二十六日(土)から二十八日(月)までで、短大はその準備の為五月二十五日(金)を休業とし、そして終了した翌二十九日(火)は、後片付けのために昼間部は休講で夜の英文科第二部は授業が開始されていました。

六月の半ばともなりますと、その年の夏の行事が検討され、やがて夏期講習会(昼・夜)と夏期集中授業(夜)の詳細が次のように発表され、その案の通り実施されていました。夏期講習会、昼の部は七月六日(金)から二十三日(月)迄で、科目及び担当者は次の通りでした。○会話作文コース　午前九時―十時二十五分　相川高秋教授と松本房枝講師　○英文講読コース　十時三十五分―正午迄　小玉敏子助教授と椿木陽子講師(※)。夜の部は七月十六日(月)から八月一日(水)迄で、科目及び担当者は次の様でした。○英文講読コース　午後五時四十分―七時迄　相川教授と松本實講師　○会話作文コース　七時十分―八時二十分迄　川口卯吉講師と松本實講師　○基本コース　七時十分―八時二十分迄　小代安藤雄講師でした。次に英文科第二部の夏期集中授業は七月九日(月)から十三日(金)迄　体育集中授業は湊井東講師担当。八月二日(木)から十五日(水)迄は教職科目集中授業（教育史及び教科教育法）で時田信夫講師が担当していました。なお、前述の体育集中授業が終った翌日、即ち十四日(土)と十五日(日)にかけて英文科第二部のリトリートが関東学院葉山寮に於て行なわれていました。その時の講師は兵藤正之助先生でした。

当時は資金と場所、特に場所について敷地面積等の関係がありました。ご承知の如く六浦校地に四年制大学、短期大学、中学高等学校、小学校、幼稚園と存在するので中々思うように計画が実行されない時代でした。この年の建物について半年分ぐらいまとめて記述してみたいと思います。七月に入って間もなく「短大館の増築計画について、来年度中に着手して再来年から使用する計画を考えている。それについて来る七月二十三日(月)午前十一時より短大館増築についての相談会を持ちたいと、相川学長から説

明があった。」と、この様に記録されているが、何も具体的な事は解っていません。そして、九月に入ってから短大館増築についてと題し、来年四月以降着手の予定であった合併教室を四月迄に完成するようにしたい。これに関しては更に実地検討を要する。場合によっては洗濯室を後に延ばして考えよう、と。洗濯室とは当時の旧海軍航空技術廠工員養成所時代の洗濯場に囲いを施した粗末な建物、これを利用していたので家政科の実験実習室（洗濯・染色・伸子針・洗い張りなど）としては、一日も早く家政科の施設として造って欲しいとの要望が出されていたのも当然でした。実に不便極まり無い建物で教育的なものでなかったのは事実でした。

十月に入ってからも短大館増築については、来年二月までに別個に独立した建物として合併教室を完成させる予定です、と。そして、十二月に入ってからは新校舎の青写真が完成したので、その研究委員の選出が行なわれました。丁度、この時期、即ち十二月末から相川学長はアメリカンバプテスト本部の招きに依り翌年の三月末日迄の三ヵ月間渡米することになりました。その間の学長代行は大学長の白山源三郎先生が当っていましたので、短大の諸般に関して何度も相談に伺った頃の事を思い出しました。明けて昭和三十八年一月末、再び短大館増築について、白山大学長から報告がありました。現在のところ資金面の手当が困難であるとの理由で、四月迄に組立式（プレハブ）の校舎を神学部裏に建築する予定です。と、この折同時に短大の建物についても触れて記録されていましたが、（「香葉」第二十六号と少し前後いたします）この三十八年度中には決定したい。然し相川学長が渡米中のため帰国後資金不足については借り入れを起して賄うことになることだろう。と白山大学長の言葉が載っておりました。以上が校舎建築に関する記録でした。

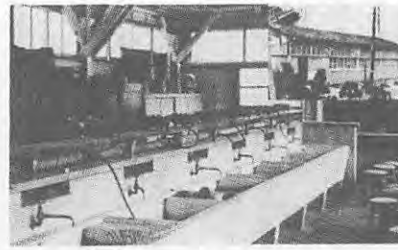
この年の北海道旅行は兵藤先生と安藤先生が引率者となって実施されていましたし、短大同窓会（燦葉会短大支部の総会）は十月十四日(日)に行なわれていました。

関東学院軽井沢山荘

また、この年の九月には長野県の軽井沢、正確には、JRの中軽井沢駅で下車して徒歩で約六十分以上、杉瓜と云う所に関東学院の寮が完成しました。当時の学院長坂田祐先生のご自慢の山荘で、収容人員は四十名、来年までにもう一棟完成させる予定との報告がされていました。初めは水の便が悪く幾つも井戸掘りをしましたが、中々水が出なくて本当に困りました。と本部職員の岡沢貞行氏（学院の卒業生で既に故人）がぐちをこぼしていたのを思い出しました。その翌年の八月には英文科第二部の学生がこの施設を利用してリトリートを行なうことになって筆者も参加しましたが、本当に水が乏しく沸き過ぎた風呂に埋める水が無くて入浴出来なかった思い出や、朝の散策路、漫ろ歩きは特別の気分でしたが蚋（ブヨ）が多くて閉口した事など等脳裏によみがえってきました。

この年も例年の如く秋のキリスト教強調週間を迎える時期になり、次の様に宗教講演が実施されていました。○十月二十二日(月)

は英文科第二部一、二年全員、説教者は高橋フミ氏で司会は柴先生でした。〇十月二十三日(火)は一年の英文科、家政科で説教者は同じく高橋フミ氏で司会者は桧垣先生でした。そして二年生の英文・家政両科は十月二十四日(水)に行なわれ、説教者は加藤常昭氏、この日の司会者は安藤先生でした。ここで思い出しました。高橋フミ牧師の語られました印象的なお話。それは癩患者を収容している孤島での様子、療養所で生活されている患者さんに対して日夜献身的に奉仕を続けておられる基督者の姿について述べられていた事でした。



旧海軍の洗濯室を改造した
被服整理室(昭和38年頃)

この頃問題になっていましたのが学生歴の件でした。四年制大学と短期大学とはその成り立ちが異なり、四年制と二年制との違い、しかも授業内容にも大きな差異が生じております。教育方針も大分異なっていて、女子教育の特殊性を考慮に入れて、種々なる面で学年歴が不適当の所が多く大学とは別の学年歴にしたい。と、検討に検討を重ねました。結果は少しづつ短大独自向けに改良されてゆくようになりました。

前述の如く校舎等の建物には膨大な予算が必要となり諸経費を大巾に削減し資金の捻出に一層努力しなければならなかった。その為、十一月半ばの会議に於て新年度は入学金を一万円から一万五千円に、特別建設費三万円から四万円に変更することに決定した。然し夜間の英文科は勤労学生が多いことを考慮に入れて特別建設費三万円は据え置くことにしました。短大の意向が理事会に受け入れられ了承が得られて決定しておりました。当時は本当に資金繰りの大変厳しい時代であったことを思い出します。

この年のシェイクスピア英語劇の夕べは十二月十三日(木)に公演され、このため午後の講義を休講として全学生の参加を希望すると記録されていまして、演し物は「テンペスト」でありました。

昭和三十八年(一九六三)一月二十七日は日曜日に当り、前日の二十六日(土)に学院創立第四十四回の式典が挙行されていました。三春台校地が当番になっていましたので全学院教職員及び一部代表学生々徒が三春台に集りました。これが年一回全学院教職員の懇親の場でもありました。例年行なわれている創立記念講演会の各校代表委員に本学からは椿木陽子講師が当り、この時の講演者は兵藤正之助教授でした。

さて、ここで少し紙面を利用して三春台校地についての思い出を含め述べてみましょう。筆者が子供の頃には三春台の丘は通称兵隊山(調練場)と呼ばれていました。その丘に「アーメンさんの学校があるぞ……云々」と評判だったのを思い出します。これは東京牛込左内町にあった東京学院の中学部が大正八年(一九一九)に中学関東学院として、この三春台の丘に設立し、雪の降る一月二十七日横浜開港記念会館で学院設立記念披露会が催され、初代院長の坂田祐先生が挨拶の中で「本校はキリスト教主義に従って学問と人格教育を行う……云々」と述べられ、また第一回の入学式に於て坂田院長が告辞の中で聖書から得られた言葉を述べられて「人になれ、奉

仕せよ」を校訓に掲げ、今日まで受け継がれてきたのです。以後、この日を学院の創立記念日として式典を行って参りました。これが前記では第四十四回を迎えたのです。来る平成十一年（一九九九）一月二十七日(水)が創立八十周年を迎えることになるのです。また、もう一つの源流は横浜バプテスト神学校設立から数えて、現在百拾四年を迎えるのです。丁度百周年を迎えた昭和六十年十月六日、盛大な式典行事が行なわれました。それ以降十月六日を学院の創立記念日と定めることに決定されました。以上で学院の創立記念日の事情がお判りいたゞけたことと存じます。筆者も一九一九年の誕生ですから創立記念日を迎える度に年令が確認されていたことなど思い出します。

前号にも記述してありますが、一月末にはいよいよ米国の婦人ミッションから女子学生のための寄宿舎建設に対する指定寄付、二万ドルが入金されることになりまして短大女子寮の新築について委員(※)を選出することになりました。その折決定しましたのは桧垣好子先生、安藤寿々代先生、椿木陽子先生、兵藤正之助先生で、それに相川学長と筆者も加わりました。それからは具体的なことが種々討議される様になりました。ここで女子寮の建設について少し先迄まとめて記述した方が色々と事情が判って良いかと思いました。そこで三月上旬、相川先生は未だ渡米中のため白山大学長から理事会の報告が次の様にありました。①短大女子寮の建物が承認されたこと。②女子寮の建設地(※)については院内諸学校（前述の通り）との関係もあって学内に建てることは困難であること。この報告があってからは建設委員の先生方が建設用地を捜すのに一番苦慮した点でした。情報を得ては二、三箇所の土地を見学し歩き廻りました。或る所は京浜急行六浦駅付近の土地、此処は大学の教員が所有している所、ここも見て廻りましたが女子学生の生活する場所としては適当な所としては考えられず大変困っていました。そして機会ある毎に学内に建設出来る様要望し続けました。やがて五月下旬になって寮の敷地問題として正式に理事会の決定が得られましたことが記録に載っているのを発見しました。前述の如く敷地については学外説が強かったのですが、女子学生の寮という特殊性を強く打ち出し、委員が捜し廻り交渉を続け努力を重ねました結果、功を奏したのか、やがて学院長坂田祐先生、大学長白山源三郎先生、短大学長相川高秋先生の三者が種々話し合いの場を重ねた結果、六浦校地東側の公園に面した南北に延びる細長い土地・丁度ハンソン山の裏手に当る所、此処に決定されたのです。委員の先生方の喜びの笑顔、胸を撫で下ろしていたあの様子が眼の前に浮かんで参りました。当時は色々と本当に大変な時代であった、とつくづく感じています。七月上旬に再び女子寮建築問題について、と記されており、いよ〳〵秋には着手する。その内容は五十名収容とし、二十五部屋とする。と、なお、この新しい寮に対しては新たに舎監が必要になるので、基督者にして体育の教員が得られゝば大変結構なのですが、との希望事項迄も添えられておりました。ここで今まで学内に居住していた桧垣好子先生がルツ寮のアドバイザーを昭和三十年から続けてこられましたが、この年の九月には学外に移転することになりました。そのため同じ学内居住の下田哲先生が九月から寮アドバイザーに委嘱されておりました。そして、新しい寮の設計も進み起工式が十月二十八日(月)午前十一時から行なわれました。工事が順調に進めば昭和三十九年三月に完成する運びとなりました。これ

でひとまず学寮関係を終えて、前の記録に戻り二月の行事から記述したいと思います。

恒例のスキー実習はこの年大変希望者が多く、申込時点で非常な混雑が生じました。と云うことで短大は二月二十日(水)から二十五日(月)にかけて実施されまして、この折は安藤寿々代先生が同行しました。

いよ〳〵昭和三十七年度の卒業式、三月十五日(金)の役割分担が次の様に発表され、それに従って行なわれました。会場準備係は桧垣好子先生と大河原泰之先生、卒業証書係は安藤寿々代先生と松本久子書記、卒業者氏名の呼び上げは筆者、受付案内係は桧垣先生と椿木陽子先生、レセプション接待係は安藤先生と井口安喜子先生、学生の誘導係は鳥越ノリ先生と小玉敏子先生、安藤先生答辞の指導は兵藤正之助先生でした。なお、式典会場は大講堂で、レセプションは短大ホールと一部教室を使用して行ないました。卒業記念の写真は短大館前(短大校舎西側で水槽に面した側)で各科別に撮っていました。この折は一年次生も原則として全員が出席するように注意がなされていました。同じく英文科第二部は会場係は柴三九男先生、司会が大河原泰之先生、卒業者氏名呼び上げは筆者、卒業証書関係は大河原泰之先生、式辞は白山源三郎学長が担当されておりました。夜も一年次生全員出席するよう指示されていました。そして、卒業晩餐会が次の様に行なわれていました。昼間部は三月十六日(土)シルクホテルで開催され、夜間部は三月十七日(日)横浜中華街の永華楼で行なわれていました。それからというもの、この永華楼が第二部の特約店の様になって毎年三月には学生と別れる最後の晩餐の会場となっていました。

いよ〳〵昭和三十八年度を迎えました。三月末に予定されていた如く相川学長が米国から帰国されました。そして、この四月から大河原泰之先生が大学工学部へ転任され、その入れ替わりに下田哲牧師が工学部から短期大学の専任者として紹介されていました。他に新しく英語担当の専任講師として斉藤衛先生が紹介されたのもこの時でした。

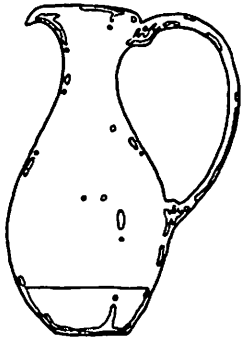
年度の初めに当り、一年のクラス担任が次の様に発表されていました。英文科A組が小玉敏子先生、B組が斉藤衛先生、C組が椿木陽子先生、それに家政科は鳥越ノリ先生、従って二年次生に対するアドバイザーについては前述四名の先生を除いて他の先生から学生が選ぶことになっていました。

この年は学生活動として、四月十九日(金)に英文科第二部の自治会に依る新入生歓迎会が午後七時から行なわれていましたし、昼間部では二十四日(水)午後三時からのアッセンブリーアワーを使って学友会主催の新入生歓迎会が開催されていました。

※(現英文科非常勤講師内野先生の旧姓)

※(当時のレートは一ドル三百六十円)

※(香葉会事務室のあるルツ館)



田中順子寮母さん、お世話になりました!!

寮生　八二七名一同

女専、短大は五十二年の歴史を持ち、ルツ寮（学寮）は四十四年の歴史を持っています。現在までに寮生として学生時代を過した人は実に約千三百人にも及んでいます。その月日の半分以上に当たる三十年間に渡って〝寮母さん〟として慕われてきた田中順子さんがこの三月、定年を迎えられました。全国から元寮生が集まった感謝会の様子と近況を御紹介します。

〈感謝会催される〉

平成九年十一月二十三日、昭和四十八年三月卒業のメンバーによる感謝会が旧姓星川典子さんの呼びかけにより徳永先生、食事をつくって下さった角井さんをお招きして真鶴会館「相生」でもたれ、北海道から新潟から、十九名が集まりました。一人一人の感謝の言葉も「田舎から出て来た入寮の日、寮母さんの笑顔に出会い二年間やっていけると思った」「卒業しても八景の近くに来る度、寮母さんがあそこにいらっしゃると思っただけで心のささえになった」「寮母さんがやめられる日が、自分の青春時代の終わりのような気がする」と、尽きることはありませんでした。感謝の品のバッグを購入するにあたり、当日欠席者の協力も呼びかけたところ、全員二十五名の名前でプレゼントすることができました。二十五年たった今、私達の寮母さんへの感謝の思いは、更に強まる一方なのです。又あの頃の寮母さんの年令が、今の自分達よりもずっと若かったことに驚き、あの潔癖さと、合わせもつ優しさに益々尊敬の念も深まるのでした。

その後、短大校舎（私達は新しい建物は何一つ使わなかった最後の学年です）、寮を見学、玄関が変わり、和室、浴室はなくなっていましたが、ほとんど昔のままで、なつかしさのあまりあちこちから歓声が。これから毎年寮母さんを引っぱり出そう、ということで一致し、なごりをおしみつつ寮を、金沢八景をあとにしました。

3号館をバックに

〔参加者〕（英）角野（大河原）いつ子・益田（脇谷）貞子・松島（外山）明子・福水（船津）由美子（国）栗田明美（家）野口（山口）あけみ・長島（堀井）由美子・手塚恭子・鈴木（関）真利子（食）吉井（天田）明美・赤間（市川）啓子・小林宣子・安田（飯塚）敬子・和泉麻耶・美保（川崎）陽子・三代川（星川）典子

寮食堂で

昭和五十二年三月卒のメンバーによる感謝会。「小さなことでも寮母さんは覚えていてくれました。健康に気をつけて楽しくお過し下さい」と、菊地（山口）陽子さん（英26回）

英文科教授　徳永　透

校庭が秋色に彩られて陽光に輝く日、田中寮母さんを囲む会に出席しました。田中順子さんが平成十年三月定年という節目を迎えるに当って、二十五年前に寮生として寮母さんと寝食を共にした約二十名の同期生が再会の催しを実現したのでした。私が出席の栄に浴した理由は当時の寮アドバイザーが若き日の徳永であったという奇縁によるものでした。

総数五十名の学生達が生活を共にした寮舎は現ルツ館で、その前の年までハンソン山の麓の林の中にありましたが、短大の校舎が次々と出現して全景が変容しました。二十数年ぶりに旧交を暖ため、語らいを楽しむ皆さん、それぞれから、母校愛と寮母さんへの敬愛と若き日の学生生活についての熱い思いが語られて、私には大変感動的な再会でありました。

学寮の三十年の歴史は寮母さんの献身の足跡のように思います。田中さんが、第二回カナダ研修の引率者として活躍されたことも記して感謝いたします。

《新しいお住まいを尋ねて》

金沢文庫駅ユニー側から歩いて三分のとてもステキなマンションです。引越しの時も元寮生がかけつけたとのこと。お寿司をごちそうになりながらのインタビューでした。

――寮母さん、去年秋の感謝会では私達みんなとても楽しい一日を過すことができました。あなた達が生きてきた年数の中で、寮生活はたったの二年。それを忘れずに忙しい中来て下さって、そのやさしさに心打たれました。寮母していて本当に良かったと思います。

――いえいえ、私達はそれだけのものを寮母さんから受けていた、与えられていた、ということだと思います。ところで、寮母さんがこのお仕事につかれたきっかけは。

油絵をやりたくて女子美(女子美術大学)に入学したんですけどね、結核にかかってしまって退学せざるを得なくなったのね。三年後に女子美短大の服飾科に入り、その後は結婚、離婚と経験しました。こちらのお話しがあり、面接したその日に小玉敏子先生、上市前事務長が「あなたに決めました」っておっしゃられたその言葉に感激しましたね。

――忘れ得ぬできごとなど、ありますか。

ある時、集団で具合が悪くなったことがあって、その時林淳三先生の呼びかけで食物専攻の先生方が集まり、学校の調理室でおかゆを作ってくれたことですね。学校全体で〝寮生を守る〟というすごい雰囲気でしたよ。

――現在はどのような毎日をお過しですか。

宣教師のスウィジー先生(S48年9月～S56年3月まで英会話教師)のバイブルクラスの影響で英会話を始めました。教会(横浜山手聖公会)でも外国の人と話す機会はあるのよ。清里清泉寮での修養会などもあり、忙しくなりました。書道の方も続けていて、今度高校時代の友人達と銀座で展覧会を開き、作品を出展します。

――将来はどのように。

群馬県秦野市の新生会シニアホームという所に、実は申し込んであるの。ゆくゆくはね。

――最後にお好きな聖書の言葉は。

「この水を飲む者は、だれでも、またかわくであろう。しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでもかわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」ヨハネ4：13、14

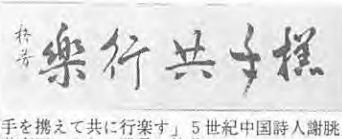
この力が私の中にもあると思うと力づけられます。

――どうもありがとうございました。

(寮母さんをお尋ねしたのは六月半ば。お話しにあった竹川画廊には何人かの元寮生も集い、その作品の躍動感あふれる筆致から受ける若さに圧倒されました。右上写真)

元寮生の皆さん、我らの寮母さんは、退職されたからといってのんびりされる方ではやはりありませんでした。シャキッと背筋を伸して、常に前を見ておられる、私たちがお世話になったあの頃と同じです。ようやく時間が自由に使えるようになった寮母さんにこれからどんどんつき合って頂こうではありませんか。

文責・福水(船津)



「手を携えて共に行楽す」5世紀中国詩人謝朓「遊東田」より　雅号　柊芳

My Dearest Junko

How does it "feel" to be old enough to retire ? How I would love to see you and talk to you. You are getting OLD when you retire, at least some folks do, but you will never grow old to me .!

I hope you will live where you can get out and go where you please. (I wish you could come to the U. S. to visit me .!!)

May God grant you a wonderful time in retirement. You are so dear to me, Sister. Much love.!!
Rene E. Sweezey

私の愛する順子へ

引退する年齢になった気持ちというのはどのようなものでしょう。
あなたに会って話をしたい思いです。少なくとも世間では引退するにはそれなりの年齢に達します。でも、私にとってあなたはいつまでも歳をとらないままなのです。

これからは何時でも気軽に出掛られるような所に住めるように、できればアメリカにいる私を訪ねて下さい。
これからの時を神様が豊かに祝して下さるように。
あなたは私の愛する姉妹です。
愛を込めて。

R. E. スウィジー
(カリフォルニア州在住)

訳　バプテスト羽村教会牧師横山早紀子さん(英23回)。アメリカに行かれるにあたりこのメッセージをもらってきてもらいました

コーヨースポットライト

田中弥生

人との出会い、そして別れは一生のうちにどのくらい経験するものなのでしょうか、

幸いにして私は、生まれてから半生が過ぎましたが数多くの人々との出会い、そして別れを経験してきました。

何故このようなことをお話ししたかったのかと申しますと、管理栄養士として病院に勤務し十八年が経過したなかで、皆様の頭の片隅に入れておいていただきたいことは、病院は生と死、そして人間の生き様がよく見えるところだということです。

病院はサービス業ですから、浮浪者もくればやくざも出入りします。そのような人たちが入院してくるとはじめはどきどきしてしまいますが、けがや病気が治ってくるととてもいい顔になり、良い会話ができるようになり、栄養指導も受け入れてくれる。やはり同じ人間なんだなと感じます。（退院後はわかりませんが?）病院でのいろいろな人との出会い、そして別れをいくつか紹介したいと思います。

病院に入職したころの話し

申し遅れましたが、南大和病院は、大和市にある救急告示病院です。病院、老人保健施設、訪問看護ステーションを持ち、夜間診療も入職当時より継続しており、朝の九時から夜の八時まで稼働しており、休む暇なしといったところです。

何故、実家の近隣である南大和病院に就職したのかと申しますと、白衣にあこがれていた私は、どうしても病院に勤務したい思いをいだき、就職困難な中、やっと面接をする機会が得られたのが南大和病院でした。

忘れもしない面接、現在では私自身で関東学院の学生を何人も面接していますが、私と同じ態度をとった学生は十七年経ったいまでも誰もおりません。それぐらい「度胸あり」といった感じだったことを思い出します。

部屋のドアをあけた弾みで、「こんにちは、よろしくお願いします。」と恐れずにっこり笑いかけるようなしぐさ。そのしぐさだけでどういう訳か採用となったと伝えられました。（私はたいした成績ではありません。もしも成績が悪ければ、第一印象笑顔と挨拶がポイントのようです！）

そこで幸か不幸か面接していたのが、現在まで私を育ててくれた聖マリアンナ医科大学病院栄養部長の小林重芳先生です。

小林重芳先生は、年の始めには必ずその「食言」を色紙にすばらしい書で、書かれています。

その中で私が一番気に入っているのは、次の食言です。

「食物は全て自然の恵みなり、これを美味ならしむるは人の道なり、病める人にこれを供するはすなわち神の代行なり」

小林先生は病人の食事は、「心優しい人」でなければできない仕事であること、宇宙や自然の営みの支配下にある地球人類は同胞をいたわることができること、それこそが人たる資格がある所以と言える。言い換えると「人にサービスができる人」それが人間の条件だということをこの書に述べられているとお話しされています。

その食言に共鳴できたのは、きっと中学校から学んでいる「人になれ奉仕せよ」という関東学院の校訓がいつのまにか身についてい

たからだったのではないかと思っています。
そんな教訓を胸にひめながら、現在まで管理栄養士として、楽しく仕事に励んでいる訳です。

患者さんや家族の様子

一般的に家長が大病をすると、とても心配そうに患者さんを見守る人、意識がなくても一生懸命に声をかける人、必要なものだけ持ってきたらすぐに帰ってしまう人など千差万別です。日ごろからの愛情の有無がそうさせるのだと思いますが、せめて回復できるまでは、愛情たっぷりで接してあげてほしいと思います。

中にはどこの誰だかわからない人が一人で死を迎え、亡くなったあとの行き先もわからなかったり、そのさかさまで突然の死で家族は呆然として、納得できずに医師に殴り掛かって来る人などがおり、それぞれの心情がいたいほど伝わってきます。

また医師から「今晩が山でしょう」などといわれながら、奇跡的に助かった方も数多くおります。患者さんを看病し続けている家族の方は、意識がなく植物人間の状態だった患者さんが奇跡的に目をあけた、話しをした、何かをお話ししたら手が動いたなどと、それが何秒であろうと何時間であろうと感激し、本人はもとより家族の方も涙をながしながら喜びを感じています。（テレビドラマとは少々ちがいますが？）

しかし、前述したように、兄弟、親、子どもでありながらも、医療的な措置はしないでほしい。栄養も必要ない。という方などなど、このような背景には単なる寝たきりにしたくないという気持ち以外にも患者さんをめぐったさまざまな問題があるのです。（皆様のご家族がもしも緊急事態になったらどうなさると思いますか？）

なにも役に立たなかった管理栄養士

栄養不良の明らかな著明で、拒食のために何も口から食べることができずにいた患者さんのお話しです。この患者さんは経管栄養剤や静脈栄養剤を利用しなければ生命の危機が考えられ、何の栄養剤を使用しても何とかしてあげたい。という気持ちでいっぱいになりました。しかし残念ながらそれらの栄養剤を利用しないでほしいという家族の強い希望があり、使用できないまま、あっという間に亡くなってしまいました。言い換えれば、何も食べさせないで餓死させたことになります。このような例は良くあることで、医療スタッフは、ただ見ているだけで何もできず無念な思いであきらめてしまいます。

終わりに

私が管理栄養士として「人に優しくなれる」瞬間。それは患者さん達が病院の食事をおいしそうに召し上がっている時です。栄養士の中には一番いやな時間という人もいますが、患者さんの食べている様子一つでおいしいのかおいしくないのか、食べたくないのかが良く分かります。食べられない人へはどのようにして口から食べさせてあげればよいのか等、患者さんの顔をみながら考えていきます。その考案したプランがうまくいき、食べはじめの時の喜びといったら想像以上のものです。

今回病院において私自身をはじめ、人間の生き様について書き綴ってみましたが、いろいろな人々に出会えたこと、管理栄養士としての職務につけたことを誇りに思い、これからも「人に優しく」ありたいと思っております。

そしてそんな私を今でも忘れないで、ご教示ご指導くださる手嶋教授をはじめ母校の諸先生方にも心から感謝申し上げます。

（家30）

ハンソン山から

今回は、現役の先生方にご自分の研究についてを中心にお書き頂きました。ご自分の分野を通して投げかけてくださった言葉は、先生方の生の声、実像を見せて頂いている思いがします。タイトルは、短大の地に因みハンソン山の名をお借りしました。

吉田　博

「キノコ類の生理・化学的特性」を明らかにしたいと、この二十年、検討を進めてきました。現在はキノコ類の食品機能に着目し、制ガン効果の高いインターフェロンの生産を誘発する多糖類を多量に蓄積する食用キノコの創製を目的に、細胞融合法なるバイオの技術をもって展開中です。鍋料理などでこのキノコを食べていさえすればガンの心配は不要という日のくることを夢みながら…。

しかしながら、一昨年の九月から学長の職を担うことになり、現在、研究は一時、中断の状況にあります。再開を楽しみにしております。

昨秋、本学院の中庭にウシグソヒトヨタケが発生していたので胞子を採取し、寒天培地をいれた試験管に接種したところ、菌糸（白色でカビのようにモヤモヤしている）が伸びて小さなキノコが発生しました。同様のことを広いシャーレで行ってみると菌糸のみが際限なく伸びてキノコをつくりません。イネのような植物も狭い場所で育てると小さいながらも花をつけることが知られておりますが、キノコや植物は自らが暮らしている環境の大きさや栄養の量を心得ているようです。限られた地球資源を際限なく消費し、環境破壊にも十分な歯止めがかけられず、飽食、贅食にはしる人類の行動をみているとキノコの生き様は今の私にとって一服の清涼剤でもあります。

キノコは環境条件が悪化し、菌糸の生長がままならなくなった時に始めてキノコをつくります。したがって、キノコを発生させるためには菌糸の生長を阻害すればよいことになり、この特性はキノコの栽培にも応用されております。シイタケの場合菌糸が蔓延した原木を一昼夜水につけ、菌系を窒息状態にします。するとシイタケの菌糸は「ヤバイ!!」と思い込み、生物の本能である子孫を残す行動、すなわちキノコをつくります。

厳しい条件下に遭遇しないとキノコをつくらないというこの現象は教育に携わっている私にとっても興味深い現象です。最近はマツタケのように極めて生長が遅く、親離れできない学生が目につきますが、大らかにそして時には厳しく対応し、菌糸からキノコに生長した学生を社会に送り出したいものと願っております。今、我々、教職員の器量が問われている時でもあります。

私は伊豆の田舎育ちですので、環境のなせる技か自然環境に身をおくことが性に合っているようです。現在は研究を口実に、興味深いキノコとの新たな出会いを期待して時間の許すかぎり山野を歩くことにしております。昨年は、白神山地、尾瀬、八ヶ岳、空木岳、蓼科山、霧ヶ峰を、今春は残雪の夜叉神峠、鳳凰三山を歩いてきました。このGWは富士山の五合目より未踏の原生林に入り込み、樹林のもとに敷きつめられたコケをベッドに、しばし昼寝でもしようと計画中です。

中田　弘良

一、研究は

体育学が専門ですが中でも子どもの発育・発達とそれに合わせた身体活動や遊びについて研究中です。

二、趣味・生きがいは

スポーツ(全般)を教えたりおこなったり、マジック、日曜大工などが趣味です。

生きがいは、未来ある若い学生に囲まれて授業をしたりオシャベリをすることと、健康で長生きし、二十一世紀を一日でも長く生きられるように日々努めることです。

三、卒業生に一言(近況など)

幼児教育科卒業の皆さん、その後お元気にお過ごしでしょうか?今年の三月に幼教の第二十四回生が卒業し、今までに三、五二〇名が巣立って行ったことになります。幼教で学んだことを基に保育の現場で経験を積み、その後ご自分のお子様の保育に専念しておられる方、大勢の子どもたちに囲まれながら現役として奮闘中の方、OLとして活躍中の方などそれぞれだと思います。私は幸いにして一回生から係わって来ましたので、時々当時からの名簿を開いて見ては昔を思い出しています。授業でのこと、実習園で戸惑いながら頑張っていた様子、体育祭で優勝して盛り上がったこと、天城山荘でのリトリートでキリストについて学んだり浄蓮の滝までハイキングしたこと、キャンプ実習での思い出などなど走馬灯のように限りなく現れてきます。

二年間という短い期間ではありましたが皆様方にとっても貴重な思いで深い学生時代だったことでしょう。

小生は、長い間の幼児教育科長と付属幼稚園主事を辞し、現在は学生生活部長として寮生、課外活動、厚生関係、相談室など学生生活全般の責任者として日々励んでいます。停年まであと僅かとなりましたが全力投球で務め上げようと思っています。

卒業された皆様方も健康には充分に留意されて、それぞれにご活躍下さい。ご健闘をお祈り申し上げます。

矢嶋　道文

この度は、伝統ある卒業生の皆さんの機関誌「香葉」にご招待頂き、ありがとうございます。以下、お尋ねの内容に沿って、お答えしたいと思います。

(1)　私の研究について

私の研究テーマは、江戸時代の経世思想(今日でいう政治・経済思想に人文科学などの領域を加えたもの)を、イギリスをはじめとする西欧近代黎明期の政治・経済思想などと比較することにあります。江戸時代と絶対王政成立期～産業革命開始期のイギリスとでは何がその接点か、ということになりますが、それが実に重要な接点をもっているのです。

今日、上記イギリスの時代を「重商主義」の時代と呼んでいますが、他方、江戸時代の経世思想についても、ほぼ百年にわたり、この「重商主義」という用語が伝統的に適用されてきているのです(この内容については昨年の『短大論叢』九十八集に紹介しました)。しかし、各国のおかれた史的事情や、地理的環境などに応じた広義の「重商主義」解釈を求めない限り、西欧に発した「重商主義」の概念を江戸時代の日本に適用させるこ

とは難しい、というのが私の主張です。

研究の方法としては、とくに目新しいことはないのですが、江戸時代の思想を深く理解するためにも、数年前より地方の古文書に可能な限り接するよう努めています。また西欧の「重商主義」については情報に遅れないよう最新の文献を読むことを心掛けています。日欧が対象ですが、最近ではワープロやパソコンが便利ですので、頭の切り替えもボタン一つでOKです。これまでの研究に、もう一工夫加えて、一～二年の内には、学位論文としてまとめたいと考えています。

(2) 趣味・生きがいについて

就任十八年目になるいまもジョギングを趣味としています。五十歳となった今年の金沢区民大会では、海の公園～八景シーサイドパラダイスの五キロコースを二十分程度で完走しました（昨年はギックリ腰で途中棄権）。一キロ四分のペースは苦しかったのですが、同大会に友好参加した私の町の小学生が一生懸命応援してくれました。

また、生きがいについては、友人関係などで行き詰まった学生に笑顔が戻ったときや、心配の種の学生がその後とてつもなく頑張ってくれた時などに感じます。このほかジョギングサークルの活動、カナダ研修メンバーのOG会、文化祭での卒業生との触れ合いなどに、教員としての生きがいを感じます。

(3) 卒業生の皆さんへの一言

自分自身のささやかな目標を立て、いつか達成できるよう頑張って下さい（挫折しそうな時とか、元気のいる時には好きなコンサートを聞くのもよいかも知れません。私も先日、武田鉄矢の「海援隊」に励まされました）。また、弱者へのいたわり、心の優しさを養う努力をお互いにしたいものです。「人になれ奉仕せよ」の学校訓を胸に、卒業生としての誇りをいつまでも高く持ち続けて下さい。

山崎　稔恵

私は家政科で「服飾文化論」を担当し、文学や美術などの作品をてがかりとして、最も私たちの身近にある服飾をみつめていくことの面白さを語っていきたいと考えている。多感な年頃を迎え、ますますおしゃれに余念のない彼女たちは、自分たちが着たい衣服への関心は強い。また家政科には、生活に役立つ技能が身に付けられるからという理由で入学してくる学生もおり、実利的な成果を期待する傾向も強い。そのような学生を前にして、美しく装うための、いわゆるHOW-TOではなく、服飾の有様を紹介し、そこに託された人間の心情を理解にもたらすことに、彼女たちがどれだけの関心をもつであろうか。

例えば、俵万智さんの歌に、「ハンケチを忘れてしまった一日のような二人のコーヒータイム」がある。ハンカチーフといえば、誰もが幼少の頃より外出の際にはちり紙とともにポケットにあるいはバッグの中に入れておくように躾けられ、また初等教育においては時折その携帯の有無を検査されるなど、私たちの日常生活において欠かすことのできない持物のひとつである。従って、忘れようなものなら何となく落ち着かない。この歌はそのようなハンカチーフと私たちの心情的関係を巧みに捉え、詠んだものとしてわかりやすい。さらに、そのハンカチーフが愛の形象としての意味をもっていたという話に及ぶ。シェイクスピア『オセロー』の運命の鍵となった、あの苺の模様のついたハンカチーフはオセローの母の形見で、デズデモーナには

愛のしるしとして贈られた。この戯曲はのちに、人妻はハンカチを失くさないよう、夫は証拠を十分確認してから嫉妬するようにという教訓を残している。また、男女の恋情をあらわすという意味はその後も存続し、ハンカチーフを「落とす」、「投げる」、「翻す」というような行為となってあらわれている。普段何気なく使っているハンカチーフに実はこんな表情があった。

服飾の美的な意味を見いだし、人間とのあり方を考えていく過程には、心おどる楽しさがある。生活の合理性や利便性を追究する方向とは異なった、服飾文化に対するこのような理解や愛着は無用なことにも好奇心を抱く者にとっては魅力的である。

今日、私たち人間の生活が豊かで潤いのあるものであるよう精神的文化的充実を図るための芸術文化の必要性が唱えられ、国や地方自治体の重要な施策として各種公共事業が展開されている。芸術文化のための社会システムの整備は確実に推進されなければならないにしても、芸術文化を支え、受け止めていく人間の側の育成も重要な課題であると思う。服飾文化、広義にいえば生活文化へのこのようなまなざしがまた、芸術文化を支えていく美意識の洗練につながることを願っている。

「県央のつどい」ご案内

毎秋の開催されます燦葉会と香葉会の集まりのご案内をさしあげます。今年は厚木ロイヤルホテルから本厚木駅前にあります「丸花南口店」の方で開催されます。どなたでも参加できますので、講演会出欠のハガキにて申し込みをお願いいたします。申し込みがあった方に詳しい御案内状を送付させていただきます。

日時：　平成10年11月28日(土)
　　PM 6：00～
場所：　本厚木「丸花南口店」
連絡先　香葉会　045-787-7859
　　県央支部　0462-21-1803

関東学院同窓会

合同同窓会　報告

平成10年6月23日（火）
相生本店において

燦葉会(大学)香葉会(短大)橄欖会(中・高)六葉会（六浦中・高）から代議員各8名(内代表幹事を含む)参加のもと、平成10年度代議員会が開催されました。

平成9年には、事業交際費を新たに設け、大学ラグビー部の御祝いに寄贈することができました。

本年度は各部会改選時期と重なり、坂田創会長（橄欖会）より、小林弘親会長（橄欖会）へバトンタッチされました。新会長を迎え、合同同窓会も新たなスタートとなります。

香葉会は、会長以下役員は留任となり、代議員は新メンバーとなりました。

幹事　古城会長・相吉副会長
　　井上幹事長・葛城副幹事長
代議員　小濱朝子・吉屋保子
　　白土紀久子・阿部典子
同窓会監査　織田明美

（敬称略）

関東学院女子短期大学香葉会主催コンサートによせて

毎年十一月の文化祭の時、香葉会の催しとして、女性の方の講演会がありますが、昨年度は一九八八年(平成元年)以来好評でした関東学院中、高等学校ハンドベルクワイアの演奏会が開催されました。午後三時から始まり、礼拝、続いて香葉会会長古城房子さんと短期大学学長吉田博先生の挨拶があり、いよいよお待ち兼ね、可愛らしい中学生、高校生達の入場です。このハンドベルクワイアは、毎年神奈川県立音楽堂に於ての定期演奏会をはじめ、海外でも広く活動され「ヨコハマのハンドベルの魔術師達」といわれる程活躍されています。今回は場所も短大チャペルということで楽しみにしておりました。静まり返ったチャペル内は多数の方々で席が埋まって来ました。太田和男先生を初め生徒さん達の日頃の練習の成果、研ぎ澄まされた一人、一人のベルの音。一音終る毎に次の音を鳴らすために大きなベルから小さなベルと大きさの異なるハンドベルを間違いなく移動しながらの演奏、ほんとうに魔術師のようでした。

曲目は一部バッサカリア、ジェリコの戦い、勝利を掴め、讃美、キエフの大門。一曲一曲をチャペルの隅々まで響きわたらせ、十分の休憩。この間香葉会の総会。メンバーの方々には腕を休め、次の英気を養ってもらいました。生徒達がベルを振り続けられるのは三十分位の時間が限度のようだそうです。

続いて二部、ディズニー映画からのミッキーマウス　マーチ、星に願いを。アラジン、〝キャッツ〟よりメモリー、オペラ座の怪人。アンコール曲としてハンガリアンダンス№5とTheme from "Love Story" でした。私達の聞き馴れた曲、懐かしい曲、と次々と耳と目を楽しませて頂きました。短かい時間の中で精一杯の演奏を十分に堪能しました。

今こうして筆を持っていましてもあの時のベルのテクニックを駆使した素晴らしい洗練された音色が蘇って来ます。中、高等学校の皆さん有難うございました。

今回お聞き逃がしの方、機会がありましたら是非どうぞ。

村岡愛子記（家12）

香葉室

この欄は，卒業生の皆様の消息，感想文，等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き，昨年の講演会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛，次号への原稿などお送りいただければ幸いです。

プレ03ゴールド劇場第一回公演「昨日・今日・明日」

六月十九、二十日の三ステージ無事終ることが出来ました。小濱朝子が生場桜子を高齢出産したのです。全く高齢もいい所、65才の難産でした。

平均年令60才のオバサン達四人が芝居に取り組んで一年余り、勇気と根性と情熱と何よりも好奇心をもって突っ走って参りました。

自分をどこ迄曝け出せるかしら、所詮自分の生きてきたその経験の中でしか表現する事は出来ないし、今迄生きてきた長い道程の中で、それなりに引出しは沢山あるはずなのにいざ開けてみると、どの引出しも空っぽ、何にも詰まっていないで、こんなはずはないと目を白黒させての四苦八苦でした。

自分の息子より若い脚本、演出の先生に「いい加減にセリフ覚えてきてよ」「感情が全然入ってないよ」「動きに流れがない、何やっているんだ」、等々呆れられたり、叱咤激励されたり、怒鳴られたり、でも翌日の稽古では、見事にセリフも駄目押しもきれいさっぱり忘れているという始末、それも年の効で、「ごめんなさい、先生今日も一生懸命やりまあす」と臆することなく皆で呵々と笑い飛ばして、嬉々として稽古に励んだ毎日でした。

先生の御苦労はいかばかりだったかと、今しみじみと感謝している次第です。

反射神経の鈍くなった私達オバサンを、曲りなりにも舞台に立ち上げて下さったのですから、先生の意に即さず、学芸会の域を出なかったかもしれないと反省しておりますが、結果はどうであれ、精一杯楽しく舞台をつとめることが出来て、今はほっとしております。限りある日々を燃えに燃えた自分自身に、密かに満足しております。

何たって生場桜子を産んでしまったのですからほっぽり出す訳にもいかず、暫くは慈しんで育てていかなければ親として無責任かなとも思ったり、だけどこの年では少々しんどいのも事実です。

でも、しなやかに、そしてしたたかに一度の人生を、昨日より今日、そして明日へ向けて矢張り又全力疾走致しましょうか。

生場桜子、子を取ってうばざくら

洒落てますでしょう？　え？　しゃれにもなりません？　そうですよね。失礼致しました。

（英3・小濱朝子）

例年九月は降雨量が多い事は周知の事ですが、それにしても今年は休日というと雨降りです。「香葉」二十六号楽しく拝見いたしました。昨年七月に長かった独身生活から抜け出し、暮には母を神のもとに送り、今年四月に遅巻き新婚旅行に、オランダへ花の写真を撮りに出かけて来ました。たった一週間の滞在でしたが、日本と国の広さは変わらないはずなのに、街並はすっきり（電柱が埋設されている）地平線がチューリップというノードワイクの球根畑。私達もゆったりした気分で帰国しましたが、すぐに兼業主婦の忙しさに巻き込まれて生活しております。幹事の皆様、これからも宜しくお願い致します。

（家11　宮尾　益代）

七月二十四日に待望の赤ちゃんを出産しました。おかげ様で楽しく育児をしています。十年前に短大で学んだ事がここでとても役立っています。小児保健ノートをひらいてみたり、乳児保育のテキストを読んでみたり、私にとって大切な育児書です。これからは、育児日記をつけて娘にとっての新しい育児書ができたら、と思っています。

（幼12　平野　悦子）

主人の転勤により八王子へ転居して早四ケ月。今や引越しのゴタゴタも片付き、平穏な毎日を過ごしております。転居前、御無沙汰していた短大時代の友人よりたまたま電話をもらい、会うことができました。話題はもっぱら短大時代の事ばかり。とても懐かしいひとときを過ごしました。主人の転勤続きでアルバムは段ボール箱のまま押入れに入っていたのですが、思わず出してみました。他の方々はどうしているのか会いたい気がします。

（英31　佐々木　由美）

なかなかそちらに遊びに行くことができないので「香葉」を楽しみにしています。在学中お世話になった丸山先生が定年を迎えられたとのこと。改めて長い年月が過ぎてしまったことを感じました。私の脳裏に浮かぶのは腹話術で楽しませてくれた若々しい先生の姿です。

（幼6　大内　幸枝）

北の大地では、すでに十月中旬に初雪が降り、ストーブの暖かさに包まれております。遠く離れて暮らしておりますと、母校からの便りは何より嬉しく有難いものです。若い学長先生の時代となられたご様子や、小玉先生が初の女性学長として退任されたお話等、興味深く読ませて頂きました。宮川先生や岡松先生も定年とのことで月日の流れの早さを感じさせられました。

（英24　松本　悦）

近々、アメリカで結婚し、そのまま半年程滞在する予定ですが、まだはっきり決まっていません。学生の時学んだ英語は、就職して十年たったらすっかり忘れてしまいましたが、今またアメリカへ行く準備として学び直しています。基本的な言葉も忘れてしまい、これでは高校生以下？つくづく学校を卒業してもそれで安心せずに学び続ける事が大切だと思いました。アメリカへ行ったら、できるだけ英語を習得してこようと思います。

（英35　大木　香）

三春台での最後の卒業、当時三春台での学校生活が想い出され、当時の光畑、時田、ニコルソン、柴、小滝、新任の柳生各教授の講義とその内容、門根先生の体育で校舎の下のグランドでバレーボールで打ったボールが先生に当たりひっくり返った姿が想い出されます。又、六浦に移転に関する学生大会の議長に選任され、学校の当事者と討議し、多少異

論がありましたが無事移転に関しての大会が終了したことが想い出されます。香葉会の発展を祈ります。　（英2　斎藤　一正）

四年半程前、短大を訪れました。卒業後、某證券会社に就職しましたが一身上の都合により転職を希望、就職課にご相談いたしました。六月下旬、現役学生の就職活動が忙しい時期だったにもかかわらず快く相談にのって下さり現在の職場を紹介して下さいました。今年二月、職場の同僚と結婚いたしました。永久就職までお世話していただいたようだねと主人と話しております。就職課の皆様、今、改めて心よりお礼申し上げます。

（国23　中渡瀬　美佳）

主人の父が病気になったり、短大の時からの友人のお母様がお亡くなりになった事を聞くと健康が一番だと思われ、自分の年令（年をとってしまったこと！）を強く実感しました。でも「香葉」を拝見していると短大時代がついこの前に思われてしまいます。図々しい性分の私には「香葉」は気持を短大時代に戻してくれる必需品です。

（幼10　櫛田　清美）

今年の夏、三人目の子供が生まれました。上の二人も小学生と幼稚園…月日の流れの早さを感じます。近ごろ子供に接していてふと自然に「人になれ、奉仕せよ」という校訓がうかび、自分にびっくりすることがあります。短大生活の二年間は私にとって大きかった様です。

（幼8　石井　潤子）

相変らず九十才になる寝たきりの母の介護と、山登りの生活をおくっています。今年は久しぶりに富士登山が快調にできました。よほど、コンディションが良かったのだと思います。月二回の登山を目標としていますが、なかなか思うようにできません。あまりきばらず、ゆったりとした気持ちで続けていきたいです。

（英15　北條　富子）

先日子供を連れて八景島シーパラダイスに行ってきました。久しぶりに短大の近くを通り、とても懐かしく思いました。子供が小さい（八ケ月）のでなかなか短大時代の友人とも会うことができなくて残念です。でもその分時々届く手紙やハガキがとても楽しみで待ちどおしい今日この頃です。

（国29　小林　かおり）

六十五才を過ぎ公的年金のいただける身分になりました。働かなくてもお金がいただける、気持は若くてもいやおうなしに老人の仲間入りをさせられた思いです。でも二ケ月毎に振込まれるお金が何となく待遠しい思いもいたします。やはり老人になったのですね。「小朝が参りました」の番組に出演なさる百才を越える人生を歩まれている方々のように長寿にあやかりたいと願うこの頃です。

（英1　高橋　静子）

主人の転勤の都合でいままでいろいろと移転しておりましたが、ここ四年位横浜に落ち着いております。その間、同窓会誌も途切れたりしておりましたが、最近また縁あって手にすることになりました。長い間にはいろいろな事が沢山あってビックリしております。（山下先生ご他界、国文科三十周年等）今後ともいろいろな情報を楽しみにしております。

（国5　河戸　美代子）

クラス会報告

英Ⅱ部クラス会

一九五一年から五三年の間、短期大学英文科第二部学生として三春台で共に学んだ仲間たちが集まって平成九年九月十三日（土）小林守信兄を中心に第五回目のクラス会を眺望抜群の横浜ロイヤルパークホテルニッコー、六十八階の中華レストラン皇苑にて開催致しました。今回は香葉会の古城房子会長も参加され、又毎回ご参加頂いている千葉県君津市にお住まいの上市二郎先生と共に非常に興味のあるお言葉を頂戴し楽しく拝聴させて頂きました。

五回目の参加者は十三名でしたが四十四年の永い歳月を考えるとよくぞ集まって頂きましたと感謝致して居ります。中には井上春水兄の如く先の関西淡路大震災に遭遇し大変ご苦労なさったにもかかわらず、神戸市からこの為に来浜された仲間も居りました。

更にクラス会終了後、会場を変えての二次会でも思い出話に長時間費やし全員でエンジョイする事ができました。我々は過去それぞれ歩んで来た道は別々でも、共に学んだ日々を思い出しながら、楽しく語り合い昼の一時を過ごすことが出来ました事を神に感謝致します。今回、お仕事が多忙あるいは何らかの事情でクラス会に来られなかった方々、又ご病気等でやむを得ず参加出来なかった方々のご回復を祈りながら、次回のクラス会により多くの仲間たちが集まって頂ける様願って居ります。

中村　武雄（英Ⅱ1）

クラス会報告

たいへん遅くなりましたが、昨年十月に卒業後三十年ぶりにアドバイザーグループの方々と集まったことを以下にご報告申し上げます。

平成九年十月五日、銀座のホテル西洋に於いて、実に卒業後三十年ぶりに旧・吉沢アドバイザーグループで会合を持ちました。

吉沢幸子先生はご結婚により白井姓となり、十名のメンバーの内、残念ながら鈴木ミヨ子さんが昇天されたほか全員の住所が確認できました。出席者数は先生を含め六名。ホテルのイタリア料理レストラン・エレガンテで昼食を楽しみながらの親睦は、三十年のそれぞれの歩み・近況を報告しあうことから初めました。カウンセラーの分野でたいへんご活躍の白井先生も気さくな様子はお変わりなく三十年の時の隔たりはたちまち解け、和気あいあいの和やかな雰囲気で会食を楽しみました。その後ラウンジで食後のコーヒーをいただきながら、夕方近くまで歓談を続けいったん解散となりました。が、一気に学生時代の華やいだ気分に戻ったおばさん集団はさらに、過ぎた時間を取り戻すかのように、場所を移して夕食までも共に延々と親睦を深めたのでした。今回出席できなかった方も含めた再会を堅く約束して散会しました。

三木　和（英17）

五月会

五月十八日、新緑が目に鮮やかな季節と、申しあげたいところですが、今年は、早朝からの雨、どうなることかと気に病んでおりました。しかし、幸にも、集合時間（十一時三十分　関内駅）には雨があがり、出席者全員（十九人）目的地、懐石料理のお店「あじさい」へと向いました。

みなさまにお料理がおいしいと、おほめの言葉をいただき、時のたつのも忘れ、積もる話に花を咲かせたなごやかな一時でした。その席で、影山さんから、相川真理子さんがご病気で手術されたので、みなさまで励ましのメッセージをお送りしましょうと、用意された色紙を回されました。やさしいお心づかい感謝いたします。一日も早い、ご全快を一同お祈りいたします。

帰りには、全員そろって、ホテルニューグランドに立ち寄り、お茶をいただきながら、ここでも、またまた話の続きが始まりました。

今年もはるばる出雲からおいでになった藤原さん、卒業以来初めての宮田さん、よくおいでくださいました。来年も、また来年もずっとずっと、全員元気な姿でお会いできることを祈って楽しい一日の幕を閉じました。

馬越千恵子（英2）

オリーブの会

平成九年十月二十四日、秋の海風に誘われて小説とテレビで一躍有名になった失楽園ホテル「鎌倉プリンスホテル」で開催しました。午後のひとときに、お元気な鳥越先生を囲んで十八名、フランス料理に舌鼓を打ちながら賑やかに時がアットいう間に過ぎてしまいました。次回は秋の夜長に一泊で語り明かしましょうということで幹事さん石原さん（旧植田）達で金沢八景の延長線三浦海岸駅近くの「マホロバマインズ三浦」に於いて十月二十四日(土)二十五日(日)開催の運びとなっております。皆様リトリートの時の事を思い出して誘い合わせて楽しいひとよを過ごしましょう。

村岡愛子（家12）

幼教七回クラス会

去る六月二十七日土曜日幼児教育科七期生のクラス会を中田先生を囲んで行ないました。梅雨の晴れ間、横浜みなとみらいにあるヨットの形のインターコンチ「マリン　カフェ」で潮風に吹かれながら、私たちは暫し女学生気分に戻り、楽しいひとときを過ごしました。いつまでも若々しい中田先生にお会いすることができ、まだまだ迷える子羊?の私たちも、元気を沢山頂きました。

次回は、二年後の二〇〇〇年。皆様に神様のお恵みがたくさんありますように。

早野佳恵（幼教7）

母校ニュース

〈大学編入、工学部へも〉

短大卒業後の進路として四年制大学への編入があります。本学でも昭和六十三年度に関東学院大学経済学部経営学科と推薦制編入学制度が締結されて以来、平成四年度に経済学部経済学科、平成五年度には文学部社会学科、及び英米文学科、平成六年度に法学部法律学科への推薦制編入学の道が拓かれ、多くの卒業生が次へのステップを踏み、学士として社会へ巣立っています。

また、指定校推薦編入学として産能大学経営情報学部経営学科へ本学経営情報科が平成六年度に指定され、平成七年度には中央大学商学部から、同じく経営情報科が指定されました。平成八年度には東京経済大学から英文科が、平成十年度には杏林大学から国文科、家政科、経営情報科、聖徳大学から国文科が新たに指定されました。

そして今年度、関東学院大学工学部へ推薦制編入学の道が拓かれ、関東学院大学へは全学部での推薦制編入学が可能となりました。

関東学院大学工学部第一部建築学科及び、建築設備工学科へは本学家政科生活文化専攻が、同じく工学化学科へは家政科からとなっています。

なお、関東学院大学は卒業生も編入対象となっていて、学部は経済学部、法学部、工学部です。この件についてのお問い合わせは就職課へどうぞ。（〇四五-七八七-七八六八）

香葉会事業局便り

松井さん　丹野さん

永年香葉会のためにご尽力くださいました、益昌子さんと岡崎敬子さんが家庭のご事情により、事務局を退職されました。

お二人には大変お世話になり、役員始め幹事、年度委員から惜しまれながらの退職となりました。後任は協議の結果、一般応募で募集することになり、十一名の応募者中八名と面接し、二名の方を採用させていただくことになりました。

ここで新事務局二人のご紹介をさせていただきます。

丹野好子（タンノ　ヨシコ）さん。國學院大学国文科卒業。

松井美智子（マツイ　ミチコ）さん。昭和女子大学短期大学国文科卒業。

お二人ともとても気さくで、仕事はあくまでもしっかりしていらっしゃいます。同窓会にも慣れ、毎日明るい笑顔で元気に勤めていらっしゃいます。

丹野さんは月、火、木、金曜日、松井さんは月、水、木曜日に出勤しています。

皆さんどうかご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

幹事長　井上啓子

編集後記

沈丁花の香る頃から始まった編集も、次々と寄せられる原稿に励まされ、校正を繰り返すこと数回。蝉の声を聞きつつ最終段階に入り、発行を迎えました。

今回からの新シリーズ「ハンソン山から」如何でしたでしょうか。

諸先生方のご研究や、アンケートを通して先生の知られざるお姿を感じていただけたのではないかと思います。

平成9年度決算				平成10年度予算
収入の部	予算	決算	増減	予算
会費	(@18,000×940) 16,920,000	16,920,000	0	(@18,000×939) 16,902,000
賛助金	500,000	651,587	151,587	500,000
預金利息	5,000	3,292	△ 1,708	5,000
雑収入	5,000	129,451	124,451	5,000
前年度繰越金	3,420,008	3,420,008	0	2,784,446
合計	20,850,008	21,124,338	274,330	20,193,446

支出の部	予算	決算	増減	予算
通信費	3,000,000	2,681,412	318,588	3,000,000
印刷・製本費	2,000,000	1,876,481	123,519	2,000,000
総会・会合費	2,200,000	2,017,410	182,590	2,200,000
交通費	500,000	385,064	114,936	500,000
用品費	100,000	24,318	75,682	100,000
委託費	600,000	457,586	142,414	500,000
謝礼費	50,000	10,000	40,000	50,000
消耗品費	100,000	90,671	9,329	100,000
人件費	3,500,000	2,846,440	653,560	3,400,000
合同同窓会分担金	(@300×940) 282,000	282,000	0	(@300×939) 281,700
新入会員歓迎費	1,500,000	1,352,872	147,128	1,500,000
慶弔費	500,000	110,975	389,025	500,000
寄付金	200,000	200,000	0	200,000
雑費	18,008	4,663	13,345	11,746
予備費	300,000	0	300,000	200,000
特別会計	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
名簿発行準備金	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
奨学金基金	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000
(小計)	20,850,008	18,339,892	2,510,116	
次年度繰越金	0	2,784,446	△ 2,784,446	
合計	20,850,008	21,124,338	△ 274,330	20,193,446

賛助金をご寄付くださった方へのお礼とお願い

今年も後記の方々から総額「六十五万一千四五一円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。諸物価の値上げにより、年々「香葉」の発行がむずかしくなってまいりましたが、卒業生唯一の会誌を存続したいと、編集委員一同がんばっておりますので、今後共、賛助金のご協力をよろしくお願い致します。

一九九七年度賛助金寄付者（敬称略）

松井明子　池田理恵　横部久仁子　片岡純子
巴　彩子　中根悦子　石井知栄子　大川幸子
小林守信　会沢友希　蛭田加代子　髙木良子
堀田悦子　近藤睦子　五十嵐節子　笠木茂伸
寺岡利子　森　静恵　鈴木依代子　郡司裕子
梅田玲子　岡崎淑子　長谷川照子　光畑　清
足立求子　鈴木久恵　武田由紀子　飯吉玲子
木村壩子　岸　澄子　早川美智子　川島久里
保科恭子　佐藤恵子　鈴木佐智子　髙橋雅子
梅田優子　三井史子　小林三恵子　原田美子
福井英子　藤間裕子　中田美恵子　杉山愛子
小田牧子　古城房子　葉若二美子　馬渡正恵
森　禎子　中里玲子　仲村恵理子　稲垣愛子
和知章子　徳江美和　山内奈緒子　三橋幸子
平井初枝　徳江奈美　小川美津江　石渡朝子
茅　昌子　臼田修良　有馬麻由美　藤井恵子
柴山　香　高山政子　横田真由美　田辺洋子
須田廣子　髙野真岐　江波戸房子　安藤洋子
酒井ゆき　保川智子　芦部九女夫　渡辺冴子
中山涼子　山本雅子　白石真砂子　原鴫曜子
小峰節子　柁原礼子　髙橋美佐子　土山　忠
三村勝美　牧野眞澄　清田恵美子　外山京子
松野文子　矢野紀子　髙橋美知子　島津裕美
土屋幸枝　岩沢克恵　佐々木晶美　渥美裕子
高梨真弓　古郡綾子　山口ユミ子　上市二郎
中村武雄　門井正弘　長谷川伸一　鈴木利治
山本長生　佐藤薔薇　平田今日子　平井道子
高橋静子　丸山勝代　小出美智代　山下美紀
熊谷君代　山平洋子　飯塚まり子　沢野洋子
雨宮慶子　益　昌子　佐々木清唯　荻野光江
髙畑早苗　安藤弘子　菅原千代子　板垣美穂
近藤鶴子　菊地和子　中野ノブ子　タハ　茜
西村文夫　松村良江　榛葉寿美子　斉藤道子
相原梅子　井田玲子　吉田由美子　桐原千恵
菅野弘恵　矢嶋道文　谷田部敦子　池田葉子
内田康子　上石裕美　河戸美代子　片方教子
小椰香苗　玉木宮子　中嶋貫美子　和田照子
村岡愛子　山口周子　原田二三栄　大島好恵
伊藤陽子　月本鈴子　髙橋まさる　松田良子
渡辺恵子　岡田温子　日下利枝子　篠原愛子
都竹道美　芝　久江　松本智恵子　田牧洋子
柳生二三　阿部典子　田中とも子　山口佳子
吉屋保子　辰沼滋子　大竹真理子　安彦潤子
安斉慈子　井上幸子　渡辺智香子　中西愛子
成瀬節子　志津野彩　白土紀久子　飯田染子
出榮美子　小濱朝子　田辺美紗子　村井英子
富樫敦美　関根幸子　井上多恵子　山崎恵子
関　令子　杉田悦子　鈴木恵美子　石田禎子
安藤慈子　越智協子　千葉百合子　杉田紀子
鈴木廸子　八木香織　齋藤多恵子　菅野富予
田中久恵　髙橋洋子　小林寿恵子　内田駒子
朝木圭子　石井順子　丸山るみ子　小宮寛子
渋谷敦子　伊藤綾子　青木美恵子　石田順子
岡部良子　石田道博　青木千恵子　佐藤靖男
井上春水　川口祥代　馬屋原麻里　岡崎敬子
松上尊代　千田節男　千川奈緒美　長崎洋子
田中直子　上野珠恵　鈴木みどり　田中英子
高橋茂彦　前出郁子　上市由紀子　佐藤美代
渕上龍美　島田郷子　山口恵美子　小林裕子
石崎栄子　工藤ひろみ　卯之木優美子
村上節子　三野宮恭子　ヒース美奈子
大石豊代子　伊藤紀美江　竹内恵美子
関口真喜子　石井多恵子　田丸瑠実子
青木昭二郎　石垣孝太郎　増田安喜子
後藤美和子　馬屋原有利子　梅山フク江
福間世紀子　西村麻由子
祖父江有加　中津川久美子
安藤弘子　匿名一名　無記名二名

（一九九八年三月三十一日迄）

先輩諸姉へ求人のお願い

本学卒業予定者の就職活動につきましては平素より暖かなご援助、ご協力をいただき感謝申し上げます。

学生達は将来への希望を胸に企業の扉をたたいておりますが、昨今の社会情勢の中、女子学生への門戸は大変厳しいものになっております。

つきましては、先輩方のご関係で求人のお話がございましたら就職課へぜひお知らせくださいますようにお願い申し上げます。

〒236-8503 横浜市金沢区六浦町4834　Tel (045) 787-7868
関東学院女子短期大学就職課　Fax (045) 781-1491

香葉第27号

平成10年10月1日　印刷・発行
関東学院女子短期大学・香葉会
代表者　古城房子
横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236-8503
関東学院女子短期大学内
Tel・Fax《045》787-7859

関東学院同窓会・香葉会誌